

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3923673号

(P3923673)

(45) 発行日 平成19年6月6日(2007.6.6)

(24) 登録日 平成19年3月2日(2007.3.2)

(51) Int. Cl.

F I

A 4 5 D 34/04 (2006.01)

A 4 5 D 34/04 5 1 5 Z

B 6 5 D 83/00 (2006.01)

B 6 5 D 83/00 J

請求項の数 1 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平10-352547	(73) 特許権者	000135324
(22) 出願日	平成10年12月11日(1998.12.11)		株式会社ノエビア
(65) 公開番号	特開2000-166642(P2000-166642A)		兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目13番地 地の1
(43) 公開日	平成12年6月20日(2000.6.20)	(74) 代理人	594044059
審査請求日	平成16年3月17日(2004.3.17)		小川 篤子
		(74) 代理人	390000918
			竹井 増美
		(72) 発明者	人見 清志
			滋賀県八日市市岡田町字野上112-1
			株式会社ノエビア 基礎研究所内
		審査官	氏原 康宏

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 液状化粧品用容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

外装容器(2)、塗布量調整部材(6)、内部容器(5)、及び液状化粧料を塗布する塗布具(4)を有し、内部容器(5)の上端部を固定部(7)にて外装容器(2)に固定し、内部容器(5)の下端部を塗布量調整部材(6)と嵌合させてなる液状化粧品用容器であって、柔軟性を有する素材によって構成された内部容器(5)の外周上にスリット(9)を設けることにより、塗布量調整部材(6)を回転させた場合に内部容器(5)がスリット(9)形成部にて捻転し、内径が収縮することで、塗布具(4)への液状化粧料の付着量を調整するようにしたことを特徴とする液状化粧品用容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、塗布量の調節機能を有し、さらに内容物の攪拌効果を有して、内容物の残量が少なくなっても、最後まで無駄なく使用できる液状化粧品用容器に関する。さらに詳しくは、内部容器を柔軟性を有する素材により構成し、その外周上に等間隔にスリットを設けて成る液状化粧品用容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

マスカラ、アイライナー、ネイルエナメル等液状化粧料を収納する容器は、一般に筆やブラシ軸を有する塗布具を有し、筆又はブラシ部に液状化粧料を付着させた後に、この筆又

はブラシ部をしごき部材でしごき、所定量の液状化粧料を筆又はブラシ部に付着させるようにしていた。これら液状化粧料用容器には、使用者の好みに応じて筆又はブラシ部への液状化粧料の付着量を適宜調節できるように、筆又はブラシ部に対するしごきの強さの調節機構を有するものがある。

**【 0 0 0 3 】**

かかる容器においては、外筒内部に液状化粧料を収容する内筒が挿入されており、前記内筒を外筒に対して回転すると、前記外筒の内面と内筒の外面に設けたねじ機構が、前記内筒を外筒に対して上下動させるしくみとなっている。そして、前記外筒の上端の口部に螺合するキャップから前記内筒に挿脱可能な筆又はブラシ軸が伸びており、この筆又はブラシ軸の先端に筆又はブラシが固定されている。内筒の上端には前記ブラシをしごき部材、ゴム等の弾性材から成り、中央に挿通孔が開いたコーン形のしごき部材を設けている。このしごき部材にはその上方から、前記外筒の上部に設けた裏当て部材が突き当たっており、前記内筒を外筒に対して上下動させて、裏当て部材のしごき部材に対する食い込み量を変化させることにより、しごき部材の挿通孔の周囲を弾性変性させて挿通孔の開口径を拡張できるようにしていた。

10

**【 0 0 0 4 】**

また特開昭54-88445号公報においては、ボトルカバーに対して尾端に突出しているボトル端部を捻回することによって、ボトルを旋回上下動させ、先端のワイパがボトルカバーに設けた張り出し部に圧接する押圧力を増減させ、ワイパオリフィスの孔径を調節する化粧料容器が示されている。

20

**【 0 0 0 5 】**

さらに、口部内面に張り出し部材を突設し、底部に尾栓を回転自在に嵌合した外ケースと、該外ケースに嵌合され、内部に塗布液を収納し、先端に弾性を有するしごき部材を設けた内ケースと、前記張り出し部材に圧接してしごき部材の孔径を変化させる調節手段として、内ケースを直線的に上下摺動させるための外ケース、尾栓、内ケースとの間に設けた繰り出し機構と、しごき部材に挿通され塗布液に浸漬される塗布棒を取り付け、外ケースの口部に気密的に着脱されるキャップとで構成されたマスカラ容器（実公平3-21691）が開示されている。

**【 0 0 0 6 】**

一方特表平7-505794号公報では、管状の外装体内に、それから独立した取り外し可能な定量分配装置を有するアプリケーション管が開示されているが、この容器においては、アプリケーション管の一端に設けられたカプセルを押すことによって、エラストマー製の部材が変形し、前記部材が初期の形状となることによりマスカラ等液状化粧料が吸引され、次いで再びカプセルを押すことにより、管状部分に形成されたスリットを通してマスカラ等が滲出されるものである。

30

**【 0 0 0 7 】**

しかしながら、上記した塗布量調節機構が口部に設けられている容器では、調節操作の際、口部に付着している塗布液によって手指を汚染することがあった。また、押圧力によりワイパオリフィスの孔径を調節するものでは、ボトルを旋回上下動させるため、操作把持部の長さが長短に変化し円滑に操作できず、ボトルの旋回動作により先端のワイパは張り出し部に回転圧接するので耐久性がなく、気密性についても問題のあるものであった。さらに、しごき部材の孔径を変化させるものでは、筆又はブラシ軸の引き出しがスムーズにできないことがあり、取り外し可能な定量分配装置を有するものでは、構造が複雑となる上、化粧料液を塗布具の存在する部位まで吸引するのにカプセルの押圧操作が必要であった。

40

**【 0 0 0 8 】****【 発明が解決しようとする課題 】**

そこで本発明においては、簡易な構造で塗布量の調節が容易に行え、さらに内容物の攪拌効果を併せ持ち、内容物を塗布具周辺に集積することにより、最後まで無駄なく使用できる液状化粧料用容器を提供することを目的とした。

50

## 【 0 0 0 9 】

## 【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するに当たり、従来のように、しごき部材の内径を物理的な圧力により可変することによるのではなく、内部容器の内径を拡張又は縮小し、塗布具周辺の内容物量を加減することにより塗布量の調節を図ることを検討した。

## 【 0 0 1 0 】

その結果、内部容器を柔軟性を有する素材により構成し、その外周上に等間隔にスリットを設け、当該内部容器の一端を外装容器に固着させ、他端を塗布量調整部材と嵌合させることにより、容易に塗布量の調節が行え、内容物の凝固や沈降等もなく、最後まで無駄なく使用できる液状化粧料用容器を得ることができ、本発明を完成するに至った。

10

## 【 0 0 1 1 】

## 【発明の実施の形態】

本発明に係る液状化粧料用容器は、塗布具を固定一体化したキャップを有し、口部にしごき部材を設けた外装容器内に内部容器を設けて成る。内部容器は柔軟性を有する素材により構成され、一端はしごき部材とともに外装容器口部において固定され、他端は外装容器底部に設けられた塗布量調整部材と嵌合される。

## 【 0 0 1 2 】

内部容器を構成するのに用いる柔軟性を有する素材としては、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂等が挙げられる。そして、内部容器の外周上において等間隔にスリットを設ける。スリットは、外装容器に固定した際にしごき部材の下端に位置する部位から、内部容器の1/4から1/2程度の長さとするのが好ましく、8個～12個程度形成するのが適切である。また、内部容器の外周上に上端側から下端側にかけて直下する直線状に設けてもよいし、平行な斜線状に設けてもよい。スリット間隙は0.1～0.5mm程度とするのが適切である。

20

## 【 0 0 1 3 】

## 【実施例】

さらに本発明の特徴について、実施例により詳細に説明する。

## 【 0 0 1 4 】

[実施例1] 図1に本発明に係るマスカラ容器として、実施例1の構造を示した。すなわち、キャップ(1)には塗布具(4)が固定一体化され、外装容器(2)と螺合させる。外装容器(2)の口部にはしごき部材(3)を設け、内部容器(5)の一端を固定部(7)にてしごき部材とともに固定する。内部容器(5)のaからa'にかけての外周上において、図2に示すごとくスリット(9)を設け、下端を塗布量調整部材(6)と嵌合させて成る。

30

## 【 0 0 1 5 】

図1は、本発明の実施例1に係るマスカラ容器の塗布量調節部材(6)を閉じる方向に回転させた状態を示しており、かかる状態においては、内部容器(5)は図3に示すようにスリット(9)形成部にて捻転し、内径が収縮した状態となる。その結果、内容物であるマスカラ(8)はスリット(9)から内部容器(5)外に排出され、塗布具(4)に付着するマスカラの量を減少させることができる。またこの際に、内部容器(5)の容器底が上昇し、内容物たるマスカラ(8)の残存量が少なくなった場合においても、塗布具(4)に良好に付着させることができる。

40

## 【 0 0 1 6 】

一方、塗布量調節部材(6)を開く方向に回転させると、内部容器(5)のスリット(9)形成部の捻転状態は解除され、その結果図4に示すように、前記部分の内径が拡張して内部容器(5)が外装容器(2)と内接し、内部容器(5)外に排出されていたマスカラ(8)はスリット(9)を通じて内部容器(5)内に戻るため、塗布具(4)に付着するマスカラ量が増加する。

## 【 0 0 1 7 】

上記の本発明の実施例1に係るマスカラ容器について、20才代から50才代の女性パネ

50

ラー20名を1群とした使用試験を行った。その際、回転調節機構によりしごき部材の内径を調節するタイプのマスカラ容器を比較例1とし、同時に使用試験に供した。

【0018】

使用試験は、実施例1及び比較例1に係るマスカラ容器に充填したマスカラを各群に使用させ、マスカラ塗布量の調節のしやすさ、塗布具の引き出しやすさ、及びマスカラ残存量が少なくなった場合の使用性について官能評価させて行った。官能評価結果は表1に示す基準に従って点数化させ、20名の平均値を求めた。また、使用試験期間中の内容物の状態を肉眼観察し、凝固物や析出物の出現、粘度変化等の状態変化について、全く認められない場合を○、わずかに認められた場合を△、顕著に認められた場合を×とし、表2に併せて示した。

【0019】

【表1】

評価項目	評価	評価点
塗布量の調節のしやすさ	容易である	5
	やや容易である	4
	どちらともいえない	3
	やや困難である	2
	困難である	1
塗布具の引き出しやすさ	容易である	5
	やや容易である	4
	どちらともいえない	3
	やや困難である	2
	困難である	1
マスカラ残量が少ない場合の使用性	最後まで使用できる	5
	ほぼ最後まで使用できる	4
	わずかに使い切れない	3
	若干量が残存する	2
	相当量が残存する	1

【0020】

【表2】

評価項目	実施例1	比較例1
塗布量の調節のしやすさ	4.80	3.65
塗布具の引き出しやすさ	4.80	2.70
マスカラ残存量が少ない場合の使用性	4.85	2.10
内容物の状態	○	△

【0021】

表2より明らかのように、本発明に係る実施例1のマスカラ容器を用いた群では、すべての項目において高い評価が得られていた。これに対し、比較例1のマスカラ容器を用いた群では、マスカラ塗布量の調節のしやすさについての評価が実施例1使用群に比べて低くなっており、塗布具の引き出しやすさについては、ほとんどのパネラーがやや引き出しにくい又は引き出しにくいと回答しており、マスカラ残存量が少なくなった場合、ほとんどのパネラーにおいて最後まで使い切れず、若干量～相当量のマスカラが残ってしまうと評価していた。また内容物の状態については、本発明の実施例1では状態変化を全く認めなかったが、比較例1ではわずかに状態の変化を認めていた。

【0022】

【発明の効果】

以上詳述したように、本発明により、簡易な構造で塗布量の調節が容易に行え、さらに内

10

20

30

40

50

容物の攪拌効果を併せ持ち、内容物を塗布具周辺に集積することにより、最後まで無駄なく使用できる液状化粧品用容器を提供することができた。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例1に係るマスカラ容器において、内容量調整部材を閉じる方向に回転させた場合の構造を示す図である。

【図2】本発明の実施例1に係るマスカラ容器において用いた内部容器のスリット形成部を示した図である。

【図3】本発明の実施例1に係るマスカラ容器において用いた内部容器のスリット形成部について、内容量調整部材を閉じる方向に回転させた際に捻転した状態を示した図である。

【図4】本発明の実施例1に係るマスカラ容器において、内容量調整部材を開く方向に回転させた場合の構造を示す図である。

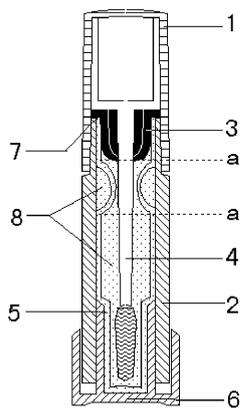
【符号の説明】

- 1 キャップ
- 2 外装容器
- 3 しごき部材
- 4 塗布具
- 5 内部容器
- 6 塗布量調整部材
- 7 固定部
- 8 内容物（マスカラ）
- 9 スリット

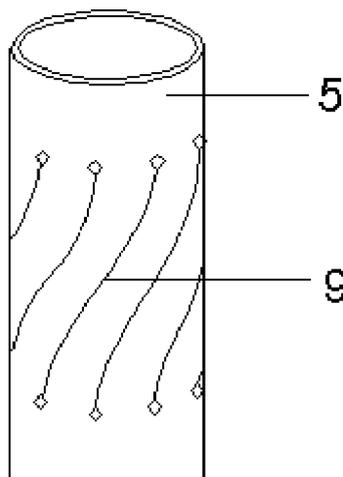
10

20

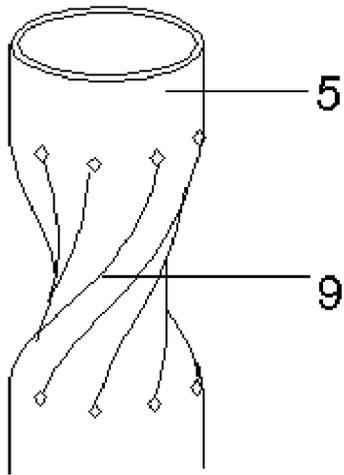
【図1】



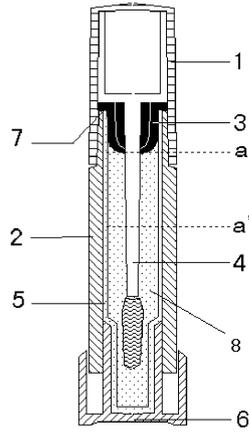
【図2】



【 図 3 】



【 図 4 】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開昭54-88445(JP,A)  
特表平7-505794(JP,A)  
実公平3-21691(JP,Y2)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A45D 34/04  
B65D 83/00